

釧新郷土芸術賞に輝く受賞者の横顔

□ 4 □

他ジャンルの演奏家とも共演

七歳で生田流宮城社、

三谷キワ門下となり、二十歳で社中を持つ。結婚、子育てと箏を両立。昭和六十三年には「箏とわ会」を主宰し、現在に至っている。現代曲への挑戦、邦楽のみならず、他ジャンルの演奏家との共演、箏曲の作曲などの新鮮な音楽活動を展開。後進の指導にも力を注ぎ、門下生が全国・全道コン



「年に1回は弟子たちの発表の場を」と橋本さん

クールで優秀な成績をおさめている。

橋本さんの音楽活動に転機が訪れたのは昭和五十二年。フルートの安藤孝さん、テノールの小林徹士さんと、釧路音楽集団「のるとモルト」を結

される邦楽界で、個人でリサイタルを開くことなど大変勇気がある時代だった。他の分野の方と一緒という事で、自由な活動ができた」と当時を振り返る。

こうした経験をもと

やすい現代曲を中心に演奏している。その後、尺八の一社中も加わり、年に一度のコンサートを継続。「教師も生徒も刺激を受け合い、よい励みになっている」と話す。

が高く評価された。作曲を勧めてくれたのは夫君で、平成三年度の本芸術賞受賞者である、書家の橋本智水さん。曲ができ

た時は最初に聞いてもらう良き理解者だ。「夫の勧めがなかったら、作曲を

しようとは思わなかった」と語る。

演奏家、作曲家で活躍

後進の指導にも力を注ぐ

自作曲だけのリサイタルも

成し、ジャンルを越えた演奏活動をはじめた。箏曲、バイオリンなど次々とメジャーは増え、十年間、コンサート活動、市内の小中学校での公演などを行った。「縦の関係が重視

に、今度は社中間の壁を取り払って、市内の箏曲四社中で平成五年に「邦楽946こと」を結成、第一回目の演奏会を開いた。邦楽の楽しみを広めたいとの目的で、親しみ

八年ほど前からは北里綾のペンネームで、箏曲作曲も手がける。平成五年には自作の曲だけのリサイタル「新曲の花束」を開き、注目された。作曲活動は今年六月、「シルフ(風の精)」で日本箏曲会連盟主催の第六回箏・創作フェアで全国二位に入賞するなど、その実力

これからも年に一度はお弟子さんに発表の場を作り、自作曲でのリサイタルも開きたい。将来の大きな夢は、智水さんが希望している海外での個展に合わせて、コンサートを開くことという。「毎年ごとに方向を決めて、柔軟に良いものを吸収していきたい」。

箏曲

橋本はるみさん(四八)

(釧路市鶴ヶ岱一の二)